

問題 12-01 AD180146

□□□□

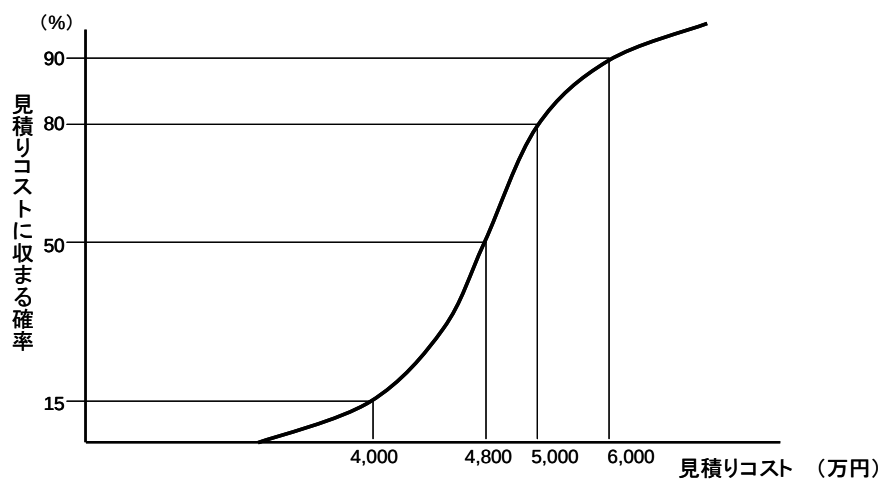
作業の予定と実績を表現するのに適している図表はどれか

- ア SD チャート イ 円交差チャート
ウ ガントチャート エ デシジョンツリー

問題 12-02 IP210236

□□□□

図は、リスクシミュレーションを基に、あるプロジェクトの見積りコストに対して最終的にその額に収まる確率を示したものである。現在、プロジェクトの予算として4,000万円を用意している。実際のコストが見積りコストを上回ってしまう確率を20%まで引き下げるためには、予備として、あとおよそ何万円用意することが妥当か。



- ア 1,000 イ 2,000 ウ 4,800 エ 9,000

問題 12-03 AD190235

□□□□

工程管理図表に関する記述のうち、ガントチャートの特徴はどれか。

- ア 工程管理上の重要ポイントの把握に適しており、個人の進捗管理などに用いられる。
イ 個々の作業の順序関係、所要日数、余裕日数などが把握できる。
ウ 作業開始と作業終了の予定と実績や、作業中の項目などが把握できる。
エ 作業の出来高の時間的な推移を表現するのに適しており、費用管理と進捗管理が同時に行える。

問題 12-04 AD190136

□□□□

システム変更に際して、保有する3,000本のプログラムのうちで修正対象となるプログラムは全体の30%であることが分かった。修正に必要な工数は何人月になるか。ここで、1日に1人のプログラマが修正できるプログラム本数は0.25本とする。プログラマは1ヶ月あたり20日間作業するものとする

- ア 11.25 イ 180 ウ 225 エ 600

ガントチャートを説明したものはどれか。

- ア 作業別に作業内容とその実施期間を棒状に図示したものであり、作業の予定や実績を示す場合に効果的である。
- イ 散点グラフにプロットされた要素の、比較的短期間での座標上の移動変化を示す場合に効果的である。
- ウ 複数の属性項目の値を線で結び、その値のバランスを評価する場合に効果的である。
- エ 棒グラフと折れ線グラフを組み合わせ、管理上の優先度を明示する場合に効果的である。

表は、あるイベントの準備作業 A～E と標準担当者人数及び所要日数の関係を示している。この表にしたがって準備時間を 35 日前に開始したが、ほかの作業との関係で、最初の 20 日間は、1 人しか担当させられない事態となった。イベントの開催に間に合うように残りの準備作業を行うためには、1 日あたり最低何人の担当者を確保する必要があるか。ここで、準備作業はマニュアル化されており、だれでも担当でき、並行して作業ができるものとする

準備作業	担当者人数	所要日数
A	2	5
B	2	5
C	3	10
D	2	5
E	5	10

- ア 4 イ 5 ウ 6 エ 7

プロジェクトマネジメントにおける WBS の要素分解に関する記述のうち、適切なものはどれか。

- ア 要素分解の最下位の詳細さは、コスト見積もりとスケジュール作成を行えるレベルである。
- イ 要素分解の最下位の詳細さは、プロジェクトの規模によらず同じにする。
- ウ 要素分解の深さは、すべての要素成果物に対して同じにする。
- エ 要素分解を細かくすればするほど作業効率が向上する。

時間を横軸にし、タスクを縦軸にとって所要期間に比例した長さで表した工程管理図はどれか。

- ア E-R 図
- イ アローダイアグラム
- ウ ガントチャート
- エ 状態遷移図

問題 12-09 AD180137

□□□□

全部で 100 画面から構成されるシステムの画面作成作業において、小規模かつ単純な画面が 30、中規模かつ普通の画面が 40、大規模かつ普通の画面が 20、大規模かつ複雑な画面が 10 である場合の工数を、表の標準作業日数を用いて標準タスク法で見積もると何人日になるか。ここで、全部の画面のレビューに 5 人日、作業の管理にはレビューを含めた作業工程の 20%を要するものとする

画面当たりの標準 作業日数（人日）		複雑度		
		単純	普通	複雑
規模	小	0.4	0.6	0.8
	中	0.6	0.9	1.0
	大	0.8	1.0	1.2

ア 80 イ 85 ウ 101 エ 102

問題 12-10 IP210148

□□□□

あるシステムの設計工程における設計書作成の予定所要工数、及び現在の各設計書の進捗率は表のとおりである。予定通りの所要工数で完了まで進むものとして、すべての設計書の完了を 100%としたとき、現在の全体の進捗率（%）は幾らか。

	予定所要工数（時間）	現在の進捗率（%）
外部設計書	500	100
内部設計書	700	50
プログラム設計書	900	30

ア 40 イ 47 ウ 53 エ 60

問題 12-11 AD190236

□□□□

あるシステムを開発するために工数を見積もったところ 150 人月であった。現在までの投入工数は 60 人月で、完了率はシステム全体の 3 割となっており、進捗に遅れが出ている。今後とも同じ生産性が続くとなると、このシステム開発を完了させるには、見積もり工数を何人月分超過するか。

ア 50 イ 90 ウ 105 エ 140

問題 12-12 IP210234

□□□□

プロジェクトを管理する上で、プロジェクトマネージャが考慮すべき制約条件の組合せとして、適切なものはどれか。

ア 対象範囲、納期、予算 イ 対象範囲、納期、リスク
ウ 対象範囲、予算、リスク エ 納期、予算、リスク

問題 12-13 AD190152

□□□□

リスク管理体制に関する記述のうち、適切なものはどれか

- ア リスク管理担当役員に、権限と機能を集中させ、リスクの発見・識別から評価に至るまですべてのリスク管理を実施させる
- イ リスク管理には機密管理が含まれるので、リスク管理の専門部門以外の部門はリスク管理に関与すべきではない
- ウ リスク処理は、保険、経営資源管理に関係するので、専任のリスク管理部門としては、財務部門が行うべきである
- エ リスク対策の実施は、権限と機能を持つ各部門にゆだね、全体管理は経営層に直結したリスク管理部門が行う

問題 12-14 AD200136

□□□□

100 本のプログラムの単体テストの進捗管理を、作業の完了度合と作業ごとの工数比率に基づいて行いたい。表は単体テストの作業内容、工数比率及び現在までに作業が完了したプログラム本数を示している。現在の単体テストの進捗率は何%か。ここで、仕掛中の作業はないものとする。

作業の内容	工数比率 (%)	作業が完了したプログラム本数
テストデータ設計	20	100
テストデータ作成	20	100
テスト実施	20	70
テスト結果検証	40	50

- ア 20 イ 26 ウ 74 エ 80

問題 12-15 AD190253

□□□□

セキュリティ状況の把握、リスク分析、セキュリティ対策の計画、セキュリティ対策の実施のプロセスにおいて、リスク分析で得られる結果はどれか。

- ア 洗い出した脆弱性
- イ 組み込まれたセキュリティコントロール
- ウ セキュリティ仕様
- エ 損失の大きさ

問題 12-16 AD180153

□□□□

火災に対して、コンピュータ室に消火設備を設置することは、どのリスク対策に当たるか

- ア リスク移転 イ リスク回避 ウ リスク軽減 エ リスク保有

問題 12-17 IP210239

□□□□

プログラムの開発作業で担当者 A～D の 4 人の工程ごとの生産性が表のとおりするとき、4 人同時に見積りステップ数が 12k ステップのプログラム開発を開始した場合に、最初に開発を完了するのはだれか。

単位 k ステップ/月

担当者	設計	プログラミング	テスト
A	3	3	6
B	4	4	4
C	6	4	2
D	3	4	5

ア A イ B ウ C エ D

問題 12-18 AD150257 AD200154

□□□□

リスク分析に関する記述のうち、適切なものはどれか

- ア 考えられるすべてのリスクに対処することは、時間と費用がかかりすぎるので、損失額と発生確率を予測し、リスクの大きさにしたがって優先順位を付けるべきである
- イ リスク分析によって評価されたリスクに対し、すべての対策が完了しないうちに、繰り返しリスク分析を実施することは避けるべきである
- ウ リスク分析は、将来の損失を防ぐことが目的であるから、過去の類似プロジェクトで蓄積されたデータを参照することは避けるべきである
- エ リスク分析は、リスクの発生による損失額を知ることが目的であり、その損失額に応じて対策の費用を決定すべきである

問題 12-19 AD200135

□□□□

ソフトウェア開発において WBS (Work Breakdown Structure) を使用する目的として、適切なものはどれか。

- ア 開発の所要日数と費用がトレードオフの関係にある場合に、総費用の最適化を図る。
- イ 作業の順序関係を明確にして、重点管理すべきクリティカルパスを把握する。
- ウ 作業の日数を横棒（バー）で表して、作業の開始や終了時点、現時点の進捗を明確にする。
- エ 作業を階層に分解して、管理可能な大きさに細分化する。

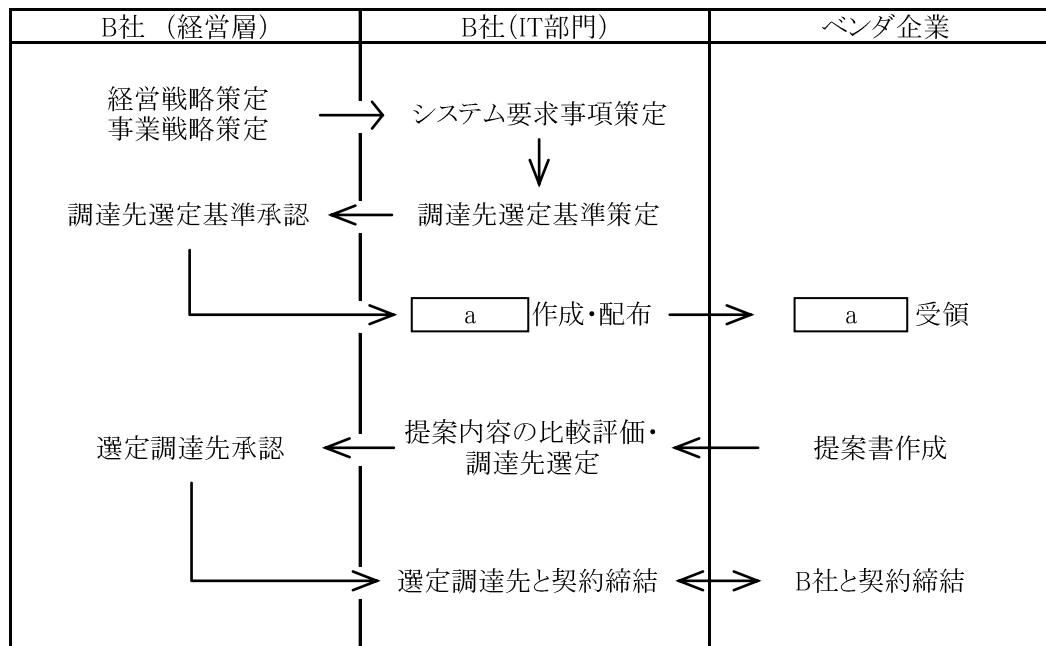
問題 12-20 AD190237

□□□□

ソフトウェアの開発規模をファンクションポイント法で見積もる場合の要素の一つはどれか。

- ア 開発者の能力レベル
- イ 開発ソフトウェアの総ステップ数
- ウ 開発ソフトウェアの入出力数
- エ 開発で使用する言語

B社は図のような流れで情報システムを調達した。aに当てはまるものはどれか。



- ア NDA イ RFI ウ RFP エ SLA

事業者の基幹となる業務で使用しているシステムにおける障害対策の考え方のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 障害が発生した際に短時間で復旧できると判断した場合は、混乱を避けるために復旧してから関連部門へ連絡する手順にすべきである。
- イ 障害が発生した際には短時間で業務を再開させることが最も重要なので、システムを再起動して業務を再開させてから障害原因を究明する手順にすべきである。
- ウ 障害が発生した際の対処方法は状況によって異なるので、定められた対応手順よりも、現場での判断を最優先にすると規定すべきである。
- エ 障害の発生は避けられないものと考えて、一部の障害によってシステム全体が停止したり、業務が再開できなくなったりしないような対策を準備すべきである。

システム開発プロジェクトにおけるリスク管理として、適切なものはどれか。

- ア リスク管理は、要件定義が完了した時点から実施する。
- イ リスク管理を行う範囲には、スキル不足など個人に依存するものは含まない。
- ウ リスクに対しては発生予防と、発生による被害を最小限にする対策を行う。
- エ リスクの発生は予防措置を徹底することで防止でき、その場合は事後対策が不要になる。

問題 12-24 IP220204

□□□□

複数のシステム開発ベンダから RFP に基づいた提案を受けた。開発ベンダの選定方法として、最も適切なものはどれか。

- ア あらかじめ設定しておいた評価基準を用いて、提案内容を比較して選定する。
- イ 開発費用を抑えるために、提案内容によらず開発費用が最も安いベンダを選定する。
- ウ それぞれのベンダの強みと弱みを、SWOT 分析を用いて評価して選定する。
- エ ファンクションポイント法を用いて、提案システムの機能の充実度を測定して選定する。

問題 12-25 IP220242

□□□□

利用部門からの要望を受けて、開発部門でシステム開発のプロジェクトを立ち上げた。プロジェクトマネージャの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア システムの要件を提示する。
- イ プロジェクトの進捗を把握し、問題が起こらないように適切な処置を施す。
- ウ プロジェクトの提案書を作成する。
- エ プロジェクトを実施するための資金を調達する。

問題 12-26 IP220146

□□□□

プロジェクトマネージャが行うプロジェクト関係者とのコミュニケーションに関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア どのような報告をいつ、だれに対してどのような方法で行うか、プロジェクトの開始時点で決めておく。
- イ 発注者にプロジェクトの進捗報告を行うときは、開発担当者が作成した進捗報告をそのまま使用する。
- ウ プロジェクトチームのメンバーとのコミュニケーションは、連絡の迅速性を重視して口頭で行う。
- エ プロジェクトの規模にかかわらず、定期的にプロジェクト内外の関係者全員を集めた進捗状況確認の会議を開催する。

問題 12-27 IP210141

□□□□

ファンクションポイント法に関する記述はどれか。

- ア ソフトウェアのもつ機能の数を基に、その規模を見積もる手法
- イ プログラムの行数やファイルサイズなどを基に、ソフトウェアの規模を見積もる手法
- ウ 見積担当者の経験から樂觀値や悲観値を割り出してソフトウェアの規模を見積もる手法
- エ 予想されるプログラム行数にエンジニアの能力や要求の信頼性などの補正係数を掛け合わせて開発工数や期間、要員や生産性を見積もる手法

問題 12-28 IP220230

□□□□

災害による事業中断へのリスク対策として、データセンタを関東と関西の2か所に設置することとした。このリスク対策は、リスクマネジメントにおける四つのリスク対応のうち、どれに該当するか。

ア 移転

イ 回避

ウ 低減

エ 保有

問題 12-29 AD200238

□□□□

現時点における設計書作成の作業実績工数及び進捗率は表のとおりである。これまでどおりの生産性で完了まで進められるとすると、すべての設計書を完成させるために今後必要な工数は何人日か。

	作業実績工数（人日）	現在の進捗率（%）
外部設計書	500	100
内部設計書	350	70
プログラム設計書	270	30

ア 150

イ 630

ウ 780

エ 1,120

問題 12-30 IP220133

□□□□

ある開発プロジェクトでソフトウェア結合テストを終了し、システムの機能を確認するシステムテストを行っている。このシステムテストで、あるプログラムに不良が多発しているとの報告があった。プロジェクトマネージャが最初に行うべきこととして、最も適切なものはどれか。

ア システムテストを中断し、ソフトウェア結合テストからやり直す。

イ テストの進捗に遅れが出ないようにするために、問題のあるプログラムのテスト要員を増やす。

ウ 問題のあるプログラムの品質を再評価し、システムテストへの影響を把握する。

エ 問題のあるプログラムをテスト対象から外し、プログラムを再作成する。

問題 12-31 IP210134

□□□□

プロジェクトを立ち上げるときに、最初に行うことはどれか。

ア 進捗管理

イ スケジュール立案

ウ プロジェクト目標の明確化

エ 予算立案

問題 12-32 IP210136

□□□□

プロジェクト管理においてマイルストーンに分類されるものはどれか。

ア 結合テスト工程

イ コーディング作業

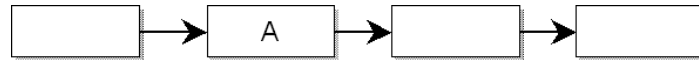
ウ 設計レビュー開始日

エ 保守作業

問題 12-33 IP210244

□□□□

ソフトウェア開発における仕様変更の手順の要素を“変更内容の評価”、“変更の指示”、“変更の反映”、“変更要求の受付”としたとき、手順のAに該当するものはどれか。



- | | |
|-----------|-----------|
| ア 変更内容の評価 | イ 変更の指示 |
| ウ 変更の反映 | エ 変更要求の受付 |

問題 12-34 IP220244

□□□□

プロジェクトメンバーの間で、プロジェクトに関する決定事項を明確に伝えるために行う活動として、最も適切なものはどれか。

- ア 議事録作成のルールを決める。
- イ 作業タスクの洗い出しを十分に行う。
- ウ 進捗を定量的に管理する。
- エ 成果物のレビューを実施する。

問題 12-35 AD190257

□□□□

ソフトウェア開発工程を評価・改善するに当たって使用できる成熟度モデルはどれか。

- | | | | |
|--------|---------|-------|--------|
| ア CMMI | イ MBNQA | ウ SLA | エ SLCP |
|--------|---------|-------|--------|

問題 12-36 IP210251

□□□□

プロジェクトのスケジュールを短縮する方法について説明したものはどれか。

- ア ウォータフォール型のシステム開発をスパイラル型に変更する。
- イ クリティカルパスの期間を厳守するために、クリティカルパスにない作業の順序を変更する。
- ウ 順番に行うように計画した作業を並行して行うように変更する。
- エ プロジェクトの全期間で、メンバーの作業負荷をできるだけ一定になるように調整する。

問題 12-37 AD210152

□□□□

データの破壊やシステムの可用性が損なわれることによって発生する費用のうち、リスクマネジメントにおいて直接的損失に分類されるものはどれか。

- ア システムが復旧するまでの代替処理にかかる費用
- イ データの破壊によって失った信用を回復するためにかかる費用
- ウ データベースの二重化とバックアップシステムの構築にかかる費用
- エ 不正アクセス防止策の実現可能性の検討にかかる費用

情報システムの災害時対応計画の策定における留意点はどれか

- ア 火災や地震などの災害が発生した場合、要員はコンピュータへの被害の拡大防止を最優先して行動するよう計画する
- イ 災害時対応計画はリスク分析の結果に基づいて策定し、組織体の長が承認する
- ウ データのバックアップは、災害時対応計画の検討対象ではなく、日常の運用業務で計画する
- エ 予測しがたい事態を対象とするので、具体的な対策指示書の作成は避ける

新しい業務ソフトウェアの開発が完了し、実環境へ導入することになった。当該ソフトウェアの導入時に必要な作業として、適切なものはどれか。

- ア 業務実施状況監視やバッチ処理投入などに必要な運用コストの見積り
- イ ディスク容量など、必要なハードウェア資源の確保
- ウ 当該ソフトウェアで実現する機能の決定
- エ 当該ソフトウェアの開発工数の見積り

ある作業を6人のグループで開始し、3ヶ月経過した時点で全体の50%が完了していた。残り2ヶ月で完了させるためには何名の増員が必要か。ここで、途中から増員するメンバーの作業効率は最初から作業している要員の70%とし、最初の6人のグループの作業効率は残り2ヶ月も変わらないものとする。

- ア 1 イ 3 ウ 4 エ 5

プロジェクト立上げ時に、プロジェクトの活動を総合的に管理及び調整するために、プロジェクト憲章を定める。プロジェクト憲章に盛り込むべき内容として、適切なものはどれか。

- ア スケジュール イ 体制
- ウ 品質マネジメント計画 エ プロジェクトの目的

システム開発プロジェクトにおいて、成果物の品質を評価するために使用する指標として、適切なものはどれか。

- ア 外部調達率 イ テストカバー率
- ウ 投入した延べ人数 エ プロジェクト経過日数

問題 12-43 IP210245

□□□□

情報システムの安定稼動を妨げる様々な脅威への事前対策に関する説明のうち、適切なものはどれか。

- ア 外部からの不正侵入が完全に阻止できれば、不正アクセスへの事前対策としては問題ない。
- イ 自然災害に対しては予測が困難なので、人的災害に絞って事前対策を講じる。
- ウ すべてのデータをバックアップしておけば、ほかの事前対策は不要となる。
- エ 予想損失額や対策コストとのトレードオフを考慮して、必要な事前対策を講じる。

問題 12-44 IP210103

□□□□

システム開発に関する RFP (Request For Proposal) の提示元及び提示先として、適切なものはどれか。

- ア 情報システム部門から CIO に提示する。
- イ 情報システム部門からベンダに提示する。
- ウ 情報システム部門から利用部門に提示する。
- エ ベンダから CIO に提示する。

問題 12-45 IP220136

□□□□

合意済みのシステム要件に対し、機能追加となる変更依頼を顧客から受けた。このときの受託側の対応として、適切なものはどれか。

- ア 運用設計担当者が、変更を行うかどうかを判断する。
- イ 決定権を持つ会議や責任者が、変更を行うかどうかを判断する。
- ウ 当該顧客の営業担当者が、変更を行うかどうかを判断する。
- エ 変更に係るソフトウェアの開発担当者が主体となって、変更を行うかどうかを判断する。

問題 12-46 IP220238

□□□□

ソフトウェアの品質評価の基準である品質特性には、機能性、信頼性、使用性、効率性などがある。機能性に関するテストとして、適切なものはどれか。

- ア 応答時間や処理時間など求められる性能が備わっていることを検証する。
- イ 使用目的や要件に従って正しく動作することを検証する。
- ウ 必要な時に使用でき、故障時には速やかに回復できることを検証する。
- エ 利用者にとって理解、習得、操作しやすいことを検証する。

開発作業の順序や相互関係を表すのに用いられる図はどれか

- ア WBS (Work Breakdown Structure) の構造木
- イ アローダイアグラム
- ウ ガントチャート
- エ マイルストーンチャート

プロジェクトにおける開発予算に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア 開発計画は総開発予算に基づき作成するものなので、個々の作業ごとの見積もりを積算して計画してはならない。
- イ 開発予算と実績の差異を監視し、必要に応じて計画変更を行う。
- ウ 開発予算は直接資材調達に対するもので、プロジェクトに参加する社員の人件費は含めない。
- エ 類似プロジェクトの有無に関わらず、ファンクションポイント法を用いて詳細な見積もりを行う。

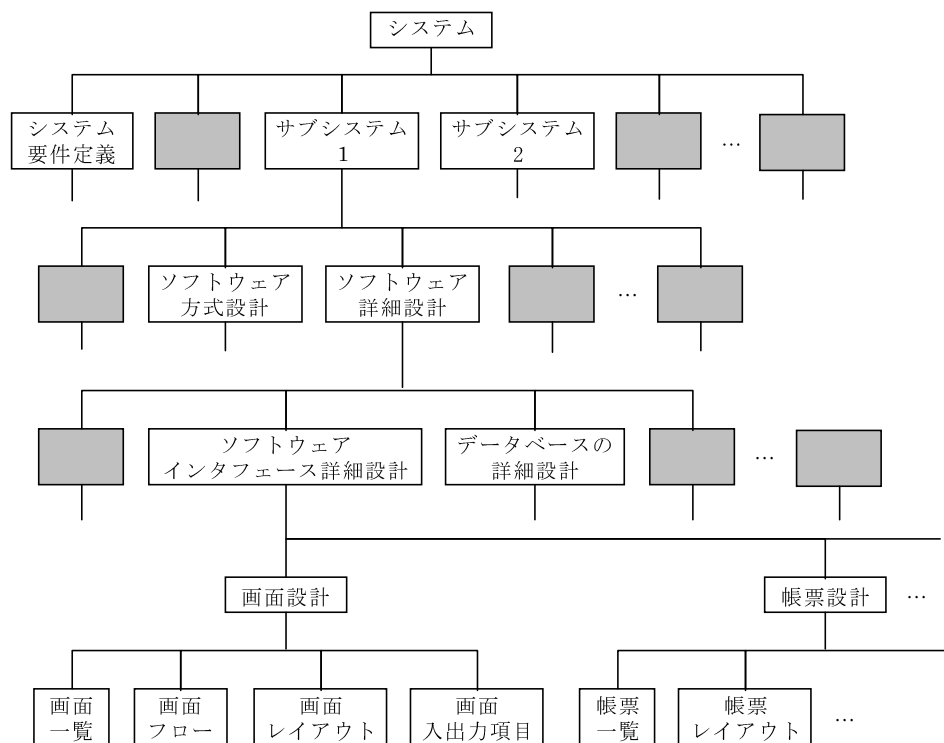
在庫管理システムの開発計画に関する次の記述を読んで、問に答えよ。

Sさんは、在庫管理システム（以下、システムという）を構築するプロジェクトに参加することになった。

システム開発計画は、プロジェクトにおける成果物及び完了基準を明確にした上で、作業分割、作業内容定義、作業順序設定、作業期間見積もり、スケジュール作成の五つのステップに分けて順に実施される。

- (1) 作業分割では、WBS (Work Breakdown Structure) を用いて、成果物の作成作業を細分化する。
WBS は、全体の作業を分割し、その構成要素を階層構造として整理したものである。
- (2) 作業内容定義では、分割した各作業の成果物と工数を定義する。
- (3) 作業順序設定では、作業間の前後関係を決定する。
- (4) 作業期間見積りでは、作業の工数を要員数で割ることで、作業期間を求める。
- (5) スケジュール作成では、各作業期間を元に開始日と終了日を決定する。

Sさんは、先輩の指導の下で、図に示す WBS によるシステムの作業分割を実施した。



注 網掛けの部分は、表示していない。

図 WBS によるシステムの作業分割

問 Sさんは、作業分割の図において、システム要件定義などのシステム開発作業全体にかかわるものをサブシステム1. 2. …と同じ階層に記載するようと、先輩から指示を受けた。図のシステム要件定義と同じ階層に記載すべき作業として、適切なものはどれか。

- ア システム監査
- イ システム結合
- ウ ソフトウェア結合
- エ ソフトウェアコード作成及びテスト

問 作業分割の図では、最初の段階でシステム開発作業全体にかかわるものとするサブシステムに着目して分割している。Sさんが図のサブシステムごとに、次の段階で行った作業分割の説明として、適切なものはどれか。

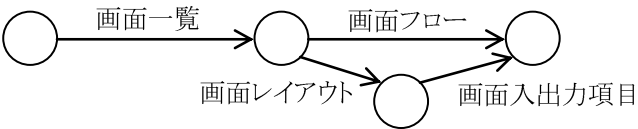
- ア 開発の工程別に作業分割した。
- イ システム要件定義の項目ごとに作業分割した。
- ウ ソフトウェアごとに作業分割した。
- エ モジュールごとに作業分割した。

問 作業内容定義では、作業分割で作成したWBSを基に、担当、工数を加えた表を作成した。次の表はその一部を示したものである。画面設計での作業5の作業間には次の図に示す順序関係があるとき、画面設計のクリティカルパスの作業日数はどれか。図では、作業の流れを矢印で、作業名を

矢印の上又は下に示している。

作業1	作業2	作業3	作業4	作業5	成果物	担当	工数
サブシステム1	ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアインターフェース詳細設計	画面設計	画面一覧	画面一覧表	田中	4
				画面フロー	画面フロー図	田中	6
				画面レイアウト	画面レイアウト図	鈴木	3
				画面入出力項目	画面入出力項目定義書	鈴木	2
			帳票設計	帳票一覧	帳票一覧表	佐藤	5
				帳票レイアウト	帳票レイアウト図	佐藤 田中	10

注 同じ名字の担当はいない。



ア 5 イ 9 ウ 10 エ 15

問 Sさんは、作業期間見積りを行い、作業期間を基に作業の開始日と終了日を決定し、スケジュールの作成を行った。次の表はスケジュールの一部を示したものである。スケジュールを見た先輩から誤りを指摘された。Sさんが受けた指摘として、適切なものはどれか。次の図は6月のカレンダーであり、土日は作業を行わないものとする。

作業1	作業2	作業3	作業4	作業5	成果物	担当	工数	作業	
								開始日	終了日
サブシステム1	ソフトウェア詳細設計	ソフトウェアインターフェース詳細設計	画面設計	画面一覧	画面一覧表	田中	4	6月3日	
				画面フロー	画面フロー図	田中	6	6月9日	
				画面レイアウト	画面レイアウト図	鈴木	3	6月9日	
				画面入出力項目	画面入出力項目定義書	鈴木	2	6月12日	
			帳票設計	帳票一覧	帳票一覧表	佐藤	5	6月6日	
				帳票レイアウト	帳票レイアウト図	佐藤 田中	10	6月13日	6月19日

注 同じ名字の担当はいない。網掛けの部分は、表示していない。

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14

[ストラテジ]

問 Fさんは全体の作業時間を考える上で、表の各作業の順序と時間を検討した。このとき、クリティカルパス上の作業の順序を示しているものはどれか。ここで、矢印は作業の順序を示している。

- ア ① → ② → ④ → ⑤ → ⑧
- イ ① → ② → ④ → ⑥ → ⑧
- ウ ① → ③ → ④ → ⑥ → ⑧
- エ ① → ③ → ④ → ⑦ → ⑧

[マネジメント]

問 Fさんは表の作業全体が最も早く終了する時間を求めた。その時間は何時間か。

- ア 10 イ 10.5 ウ 11 エ 11.5

[マネジメント]

問 Fさんが全体の作業時間を求めたところ、当初想定していた時間より長くなったので、時間を短縮することを検討するように先輩から指示された。表に示される全体の作業時間を最も短縮できる方策はどれか。

なお、並行して実施可能な作業はすべて並行して実施するものとする。

- ア 作業②を1.5時間短縮する。 イ 作業④を1.5時間短縮する。
- ウ 作業⑤を1.5時間短縮する。 エ 作業⑥を2時間短縮する。